来る二月二十四日、新宿御苑において、

天皇大喪儀斂葬の儀葬場殿の儀が別紙のとおり

行われますので、お知らせ申し上げます。

平成元年二月

宮内庁長官 藤 森 昭 一

国民と苦楽をともに...

天皇陛下、葬場殿の儀で御誄

手
シ

24
申
二
#

明仁謹んで

御父昭和天皇の御霊に申し

上げます。

崩御あそばされより、哀痛は尽きることなく、温容はまのあたりに在ってひとときも忘れることができません。櫛殿（しんでん）に、また殯宮におまつり申し上げ、霊前にぬかずいて涙すること四十余日、無常の時は流れて、はや斂葬（れんそう）の日を

迎え、輜車にしたがって、今ここにまいりました。

顧みれば、さきに御病あつくなされるや、御平癒を祈るあまたの人々の真心が国の内外から寄せられました。今また葬儀にあたり、国内各界の代表はもとより、世界各国、国際機関を代表する人々が集い、御わかれのかなしみを共にいたしております。皇位に在られること六十有余年、ひたすら国民の幸福と

世界の平和を祈念され、未曾有の昭和激動の時代を、国民と苦楽を共にしつつ歩まれた御姿は、永く人々の胸に生き続けること存じます。

こよなく慈しまれた山川に、草木に、春の色はようやくかえろうとするこのとき、空をしのび、追慕の情はいよいよ切なるものがあります。誠にかなしみの極みであります。

昭和天皇の大喪の礼が来る二月二十四日

新宿御苑において行われますので

御案内申し上げます

平成元年二月

大喪の礼委員会委員長

内閣総理大臣 竹下 登